

---

---

つれづれそう  
【徒然想】

# 「ICHIGAN」 ～選手とフロントが一丸になる～



株式会社サンフレッチェ広島  
代表取締役社長 山本 拓也

---

---

「昨年の成績は、あなたたちフロントの責任です。ちゃんとしていればもっと良い成績をあげられた。これからはフロントの力でチームを後押ししましょう」

これは、私がサンフレッチェ広島の社長に就任し、今年1月5日の初出社の時に社員に伝えた言葉です。フロントが勝つためにどういう仕事をしなければならないのか。それを考え、実行できているチームは、やはりしっかりと結果を残すことができます。私たちフロントが試合中に試合を見る必要はない。スタジアムにお越しただいている方たちが、何を望んでいるのか、それを見極めて対応していくのが私たちの仕事です。

サンフレッチェ広島は、『サッカー事業を通じて夢と感動を共有し、地域に貢献すること』をクラブ理念として掲げ、『広島を愛し、広島で一番愛されるプロスポーツクラブ』を目指しています。そのためにも、サッカーを通して広島の人々に喜んでいただき、日常生活の励みになるような活動をしなければなりません。

昨年の成績は、J1残留チームの中では最下位。クラブはまさにゼロからのスタートとなります。リーグ戦の入場者数も2年連続で減少していますが、もっと興味を持って、スタジアムに足を運んでもらえるような創意工夫が必要です。今年の目標は、カップ戦を含めたホーム

ゲーム20試合で30万人の動員を図ること。例年以上に平日開催の試合も多いですが、高いハードルだとは思っていません。スタジアムへのアクセスなど、マイナスを逆手にとる方法はないのか。ブレンストーミングを続け、全員で知恵を出し合いたいと思っています。

また、現在のエディオンスタジアムに来場いただけるような仕掛けづくりと並行しながら、長期的な視野に立ち、広島市中心部へのサッカースタジアム建設に向けての活動も、引き続き取り組んでいきます。政府は現在、「スタジアム・アリーナ改革」を大きな柱と位置付け、スポーツの成長産業化を促進する起爆剤にしようとしています。広島で検討が進んでいるサッカースタジアムの建設計画も、その1つです。交通網が整備された街中に、すべての観客席を屋根で覆ったスタジアムがあれば、大勢の観客が快適にサッカーを観戦することができます。また、スタジアム内にビジネスラウンジやレストランを設けることで、試合のない日でも様々な形で活用でき、新たな活気ある街づくりにつながるはずで

今年のクラブスローガンは「ICHIGAN」。一枚岩になり、一丸となって、一つの願いをかなえられるように全力を尽くして参ります。